

## 震災復興の願いを実現する政治(P46～P55)名前 ( )

めあて 災害にあった人々の願いは、どのような人たちの、どのような働きによって実現されるのだろうか。

○東日本大震災の発生後、まちの人たちはどんなことを願ったのでしょうか。

P46～P47を読んで書き出してみましょう。



例

- ・新しい住居が欲しい。
- ・電気やガス、水道を復旧してほしい。
- ・がれきを片付けて欲しい。
- ・仕事をしたい。 など

(1)市や県、国の取り組みを知ろう。

災害救助法って何？P48 のことばをまとめましょう。

災害発生直後、都道府県や市町村、日本赤十字社などの団体、国民の協力のもとに、国が応急的に必要な救助活動を行い、被災者の保護や社会秩序の保全を行うための法律である。東日本大震災にも適用され、救助のほか、食料や生活物資などの支援が行われた。

### 緊急対応

- ・宮城県気仙沼市では大きな地震の直後に ( 災害対策本部 ) を設けた。
  - ① ( 避難所 ) の開設。
  - ② ( 被害状況 ) の確認
  - ③ 避難した住民のための ( 水 )、食料、( 仮設トイレ ) などを宮城県や ( 災害相互応援 ) 協定を結んでいる他県の市などに手配を要請。
- ・宮城県でも被害状況をつかむための ( 情報収集 ) を行うとともに、( 自衛隊 ) に火災時の派遣要請を行った。また、( 災害救助法 ) を適用して、必要な物資を ( 被災地 ) に送る準備を始めた。
- ・国〔政府〕は、災害対策基本法にもとづき、( 緊急災害対策本部 ) を設けた。
  - ① ( 自衛隊 ) の派遣人数の増員。
  - ②他国への ( 救助 ) 要請。
  - ③必要な物資や ( 機材 ) の準備。
- ・国は緊急事態に対応するために、全国各地の消防署から ( 緊急消防援助隊 ) を派遣させた。

## (2) 復旧・復興に向けた国の取り組みを知ろう。

まず復旧・復興って何？…P51 のことばをまとめましょう。

国や都道府県が主体となって、法律にもとづいて、被災地の道路、鉄道、病院などの公共性の高いものや、水道、ガス、電気などのライフラインを修復することを復旧という。復旧だけでは十分でなく、被災地域の活力ある再生をめざした復興を進めていくことが求められている。

### 【復旧の取り組み】

- ・国会の話し合いを経て、( **第一次補正案** ) を成立。
- ・( **仮設住宅** ) をつくって、被災した人々が、そこへ移ることができるようにした。
- ・水道、ガス、電気などの( **ライフライン** ) の復旧。
- ・まち中にあふれる大量の( **がれき** ) の撤去。

### 【復興の取り組み】

- ・国会の話し合いを経て、( **東日本大震災復興基本法** ) を成立。
- ・( **復興庁** ) という新しい役所を設けた。

⇒こうした予算には国民や企業から集められた( **税金** ) が使われる。



※税金には、働く人の( **収入** ) にかかる税金〔所得税〕、( **もの** ) を買ったときにかかる税金〔消費税〕、( **会社** ) のもうけにかかる税金〔法人税〕などがある。2013年1月1日から2037年12月31日までの間、国民や企業は( **東日本大震災** ) からの復興に役立てるための特別な税金を国に納めることになっている( **復興特別税** )。

## (3) 市や市民の取り組みを知ろう。

まちづくりって何？P53 のことばをまとめましょう。

地震や津波などによって被害を受けた地域の活気を取り戻すには、漁業、農業、工業、観光業などの産業を支援し、再生させることが重要である。東日本大震災の被災地では、地道な取り組みが見られる一方で、まだ課題が多く、まちづくりは、これから先何年もかかるといわれている。

### 気仙沼市役所の小野寺さんの話

- ・気仙沼市は、かつおやさめの（水あげ）が有名。
  - ・大震災を克服し、新しい気仙沼市をつくるための（気仙沼市震災復興計画）をつくった。
  - ・住宅や道路、（橋）の整備、新しい（魚市場）の建設などを進めてきた。
  - ・市民の意見を県や（国）に伝えたり、予算や制度を利用して市民の要望を（具体的に実現）したりするのが（市役所）の役割。
- ⇒ 水産業という特色を生かした（まちづくり）に取り組んでいる。

### 気仙沼漁港の小松さんの話

- ・大震災による（漁港）のダメージは、かなり深刻だった。
- ・国や県、（市）のすみやかな対応もあり、震災3か月後には（生鮮かつお）の水あげを再開させることができた。
- ・気仙沼は20年以上連続で、（生鮮かつおの水あげ）日本一！！
- ・今後は、限りある（水産資源）を守りながら、水産業を進めていくことが大切。

（4）これからのに向けたまちづくりの取り組みを知ろう。

気仙沼市では、震災前から



【P54の写真や文章から取り組みをまとめよう。】

- ① ちよいのぞきポスターと漁師カレンダー  
→ 漁業を生かした（観光）メニューの充実に取り組み、市の（魅力）を発信。
- ② 気仙沼の（水産資源）を生かした商品  
→ 気仙沼市の特産である（さめ）やほやを使い、化粧品や調味料などの新しい商品の（開発）に取り組んでいる。
- ③ 気仙沼市移住・（定住支援）センター  
→ 気仙沼市に（移り住むこと）を考えている人をサポートするため、気仙沼での（仕事）、空き家、イベントなどの（情報）を提供している。

⇒市と市民が協力して、みりよくあるまちづくりを進めている！

※P55を最後に読みましょう。

ふり返り（災害救助法・復旧・復興・まちづくりなどの言葉を使ってまとめてみよう。）